

# AJU 愛光園だより

～私たちは、誰もが人間としての尊厳が保たれ、安心して共に生きる社会をめざします～



編集者：社会福祉法人 愛光園  
本部事務局 愛知県知多郡東浦町緒川東米田 3 3 番 3  
TEL 0562-83-9835 FAX 0562-83-4344  
URL <http://www.aikouen.jp/> E-mail [honbu@aikouen.jp](mailto:honbu@aikouen.jp)

第119号

## 変化の時こそチャンス！

療育・相談支援事業部 部長 三宅 和人

毎年のことながら、年度のはじめは身の引き締まる季節です。前号でお知らせしましたように、今年度は法人愛光園の組織を見直したため、例年とは一味違い一同心地よい緊張の中、新体制に臨んでいます。4月の1ヶ月があっという間に過ぎていくだろうと思っていたのですが、不思議なことに一日や一週間が驚くほど長く感じました。私の新天地が「大府市発達支援センターおひさま」であったため体内時計が子ども時間に戻ったのかと思いました。おかげさまでゆったりとした時間の流れの中で、利用者である子ども達との出会いの時間をもつことができました。ところが5月になると、時間は残念ながらいつもどおり、駆け足で過ぎていきました。

さて、組織の見直しのなかで、事業所を「施設」単位での枠組みから、機能別に支援できる体制へと再編しました。利用者ニーズを事業所単位で抱え込まない体制をより強化させていきます。この再編の中で皆様におなじみであった「知多地域障害者生活支援センターらいふ」もリニューアルされ、サービスを提供する機能である直接支援事業部(ヘルパー派遣、日中預かり)と公的な機能を持つ相談支援事業部を分離しました。それぞれ今年度より、地域生活支援グループと相談支援グループに所属することになります。

地域生活を支える資源がなかった、あるいは少なかった時、「支援ニーズ」を掘り起こす役割を持つ「障害児(者)地域療育等支援事業(現：障害児

等療育支援事業)などの相談支援事業」と一体的に統括することで、地域の貴重な「サービスの提供資源」としての役割をタイムリーかつ柔軟に果たすことができました。しかし時代の変化とともに地域に社会資源が少しずつ増えてくると、おひとりの支援を複数の事業所で役割分担をするようになってきました。ご本人、家族、相談員、福祉課、サービス提供事業者などで個別支援会議が開催され、ご本人の支援希望に対してマネジメントがされるようになってきました。相談員はこのような環境の中では、いわゆる「自法人への利益誘導」に注意が必要になってきます。現状では利益誘導どころか、とても難しい支援に対して協力依頼をしているのが実態で、介護保険ほどの議論にまで至っていないと認識しています。しかし、この認識がひとりよがりであってはいけなため、今回の体制整備を良い機会として捉え分離に踏み切りました。

かつて、支援センターらいふのセンター長をしていた時、相談員としてホームヘルプの利用相談を受けて、結果としてらいふのホームヘルプをコーディネートしたことがあります。後にご意見(苦情)をいただくことになった時は、相談員の自分と事業所の管理者としての自分が葛藤していました。変化はチャンスとして考え、新しい仕組みがうまく機能していくよう努力していきます。共に学び、共に考える機会をいただきました。

# QCサークル活動導入の考え方と進め方

昨年度からQCサークル活動に取り組み始め、現在26サークルが登録されています。(平成22年7月20日現在)

QCサークル活動の導入の目的は、

利用者の人間性とその尊厳を尊重し、個々の願いや思いに応えたサービスや環境を提供できるよう、法人・事業所の活性化と体質の改善に寄与する

職員の人間性を尊重して自ら考えること、職場のコミュニケーションを図ることにより、明るく活気に満ちた職場をつくる

職員の能力を發揮し、無限の可能性を引き出す以上の3点です。

QCサークル活動は、事業所及び職員自らが日常での仕事に改革意識を持ち、仕事に対する問題点・課題を挙げ、QC的問題解決方法であるQCストーリーに則り、問題・課題を解決し、改善することによってサービスの質の向上に結びつける活動です。

QCストーリーの手順は次の通りです。

- 1) テーマの選定
- 2) 現状の把握と目標の設定
- 3) 活動計画の策定
- 4) 要因の解析
- 5) 対策の実施
- 6) 効果の確認
- 7) 歯止め・標準化



自分たちの施設や職場での今現在のサービス内容を評価・把握し、原因が何処にあるのかを解析し、要因の解析から原因を浮き彫りにする。この根源となっている原因を取り除く対策を考え、実施し、この対策・対応で間違いがないか確認をする。さらに同じ間違いを繰り返さないために歯止めをし、サービス手順としての標準化、マニュアル化をします。日頃提供しているサービス内容に問題や課題があり、サービス満足度の支障になっている改善点をメンバー自らが「気づき」利用者本位のサービス提供体制に見直し、改善することにより「質」の高いサービス提供へ結びつけます。サービスの「質」を第1と考え(利用者本位)、職員の都合ではなく、利用者を最優先で考えます。経験や勘だけに頼らず、問題・課題を数値に置き換え、現状の把握・分析等、事実を科学的に裏付け、管理のサイクルを回す改善活動です。

P [plan](計画) D [do](実施)

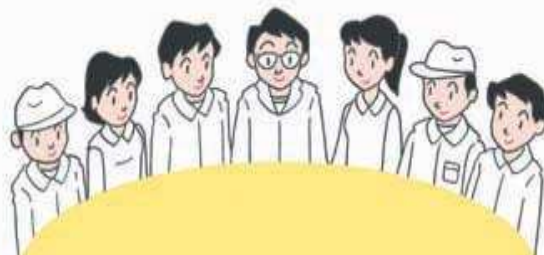
C [check](確認) A [action](処置)

一つの目標・目的にそって「しごと」を継続的・合理的・効果的に達成するために「管理点」を定め、この管理のサイクルを回し続けることにより、仕事での変化、環境の変化に常に対応することができるのです。

QCサークル活動は目的達成のための仲間づくりにもなります。サービスの質的向上のキーワードは「職員」にかかっています。職場は組織であり、一人で仕事をしているわけではありません。しかし気を緩めると「しかたない」「まあいいか」「自分たちだけでない」等々悪い方向へ、楽な方へと惰性的に流されがちです。このQCサークル活動は職場でのグループメンバーによる同じ考え方(サービスの質の向上を考える)の職員から構成されるため、意識が統一されて力強く展開できます。達成感があり、職場が明るく、楽しく働ける雰囲気になりメンバー間でのミーティングから信頼関係が生まれ、生き活きとした職場が生まれます。

今年度は、全事業所で6～10月の3ヶ月～4ヶ月で終わられるテーマで活動を行います。10月には事業所内で、11月にはグループ又は事業部での発表会を行い、12月には各事業部で代表を選出し、法人での発表会を予定しています。

今までも日頃の業務の中で改善の取り組みをしてきましたが、経験・勘・度胸だけで判断することなく、QCの考え方や手法を取り入れ、三方良し(利用者・職員・地域社会)となるよう活動していきます。



全員参加(役割分担)

問題点の洗い出し、絞り込み  
QC七つ道具・層別データの解析  
仕組み・やり方をルール化  
反省・残った問題点を確認

# 平成21年(2009年)度事業報告

平成21年度は、社会福祉法人愛光園の理念の下、基本方針にそって次のような活動をしました。

## 理念

私たちは、誰もが人間としての尊厳が保たれ、安心して共に生きる社会をめざします。

1. 私たちは、誰もが、まず「人として」受けとめられ、地域の中で自分らしく暮らすための支援サービスを提供します。
2. 私たちは、誰もが、必要なときに、必要な支援サービスを利用できるように取り組みます。
3. 私たちは、誰もが、安心して暮らすために、地域の輪の中で、「共に生きる」実践と運動を進めます。

## 基本方針

地域生活支援・在宅生活支援を進め、サービス提供基盤整備の準備を行う。

## 【重点課題】

### 地域生活移行の推進

入所施設から地域生活への移行について、2名の地域生活移行を目標としましたが、達成できませんでした。障がい福祉事業部地域生活移行の担当者会議を設け、各事業所が連携して移行準備を進めました。愛知県の地域生活体験モデル事業は廃止されましたが、国の制度で共同生活介護等の体験利用の制度ができたので、その事業を実施しました。準備等の都合により事業所によって体験利用の頻度に差が出てしまったので、必要な人が利用できるよう体制を整えていきます。



ケアホーム体験利用の様子

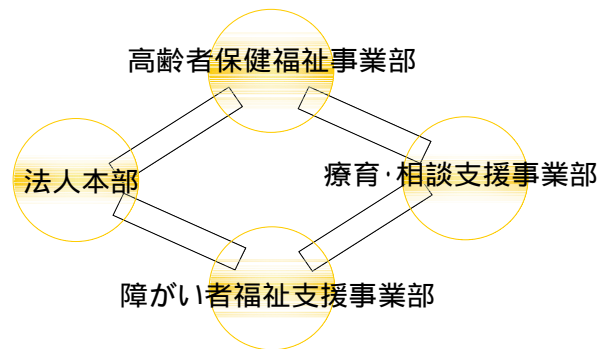


グループホーム・ケアホームの整備について、もくせいの家定員2名増、スプリンクラー設備の設置は実施できました。愛光園跡地へのケアホーム新築

については国からの補助金が認められませんでした。22年度中に補助金なしで整備します。2軒目のケアホームについては、国への補助申請をしていきます。

## 組織運営体制の再編

組織を機能別の枠組みに再編するため、今年度検討し22年度から実施しています。理念の実現が法人の使命であります。理念と事業、組織運営体制などとの関係についての説明が理事や職員等に対して不十分で、不安を与えてしまいました。また部長の兼務の解消ができない等の課題も残っています。22年度以降実践を通して組織としてきちんと機能できるよう調整していきます。



まどかが4月から新事業体系へ移行し、生活介護事業が4事業所となるので、事業所間の協力強化を狙いましたが、事業所により利用者像が大きく異なるため、交流の機会はあるも事業の連携までには進みませんでした。

人材の確保について、正職員採用数32名で退職者は14名でした。求人への応募者数は期待したほどでもありませんでしたが、退職者が減少し定着しているため人員の確保では昨年よりは改善しました。しかし看護師や男性職員の確保には課題が残っています。現在必要な職員数の明確化や、今後の事業展開を視野に入れて人材確保を行っています。



新入職員研修会



人材育成について、職能要件やOJTの仕組みを整備する目標を掲げ、一部実施しましたが、仕組みとしては不十分でした。求める人材像を明確化した上で更に検討を続けていきます。ターミナルケアなど専門性を高める研修は、研修会やケースカンファレンスを通じて、各事業所で継続的に取り組みました。

### 食事サービスセンターの円滑な運営

障がい者活動センター愛光園・ひかりのさとのぞみの家・まどか・ひかりのさとファームの食事を6月から食事サービスセンターで提供し始めました。毎月意見交換し、安定して提供できる体制は整ってきました。より質の高いものを提供できるよう改善していくとともに、法人内外に食事の大切さについての情報発信をしていきます。



食事サービスセンターの様子

### 【主な事業内容】

#### 新規事業

まどかが平成21年4月1日新事業体系に移行しました。障がい事業部のすべての事業が新事業体系への移行を完了しました。認知症対応グループホームもくせいの家の定員を平成21年4月1日より16名から18名へ増員しました。食事サービスセンターが平成21年6月から、ひかりのさとのぞみの家、まどか、ひかりのさとファーム、障がい者活動センター愛光園の食事提供を開始しました。

#### 社会福祉事業

##### 主な内容

自立支援法の報酬単価改正や、福祉・介護人材の処遇改善事業助成金を活用し、職員の処遇改善や給与格差等の是正を行いました。必要とされる能力を示し、人材育成を図るため職能要件書を修正、試行しました。

設備の更新・整備を以下のように行いました。

1. 日本財団から車両の助成をいただき、マイクロボスなど3台を整備。
2. ひかりのさとのぞみの家の厨房を食事サービスセンターとして改装・整備。



#### 公益事業

##### 主な内容

介護保険の報酬単価改正や、介護職員処遇改善交付金を活用し、職員の処遇改善や給与格差等の是正を行いました。

必要とされる能力を示し、人材育成を図るため職能要件書を修正、試行しました。

設備の更新・整備を以下のように行いました。

1. 愛知県自動車会議所から車1台寄贈。
2. 愛知労働局より介護労働者設備等整備モデル奨励金を得てシャワーベッドを整備。
3. 地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金を得てもくせいの家にスプリンクラー設備を整備。



相生に導入されたシャワーベッド

#### 収益事業

実施していません。

～お知らせ～

事業報告及び決算書は社会福祉法人愛光園の事業所にて閲覧ができます。

# データで見る愛光園

事業報告のデータ編から、現在の状況を見ていきます。

昨年と比較して、正規職員の応募は大幅に増加しました。非常勤職員からの登用11名、新規は18名採用できました。退職者率も下がり、新入職員の定着率は向上しており数字的には安定してきています。常勤換算人数は17.86人増加しています。ただし、同性介助のため男性職員の確保、医療的ケア増加に対応するための看護師は十分な確保ができていません。

非常勤職員については20年度下期から確保しやすくなり、条件によっては応募が多数来るようになりました。ただし、ヘルパー、介護福祉士、看護師など有資格者に限定すると厳しい状況が続いています。今後の事業展開を視野に入れた職員確保、人材育成に取り組んでいきます。

人件費比率は4.5ポイント下がっていますが、報酬改定などの影響で収入の伸びが大きかったため、実際の人件費支出は7,200万円増加しています。今年度は給与改定の反映が1年分となること、常勤職員が200人を超え人員増をしていることなどから人件費・人件費比率共に上がる見込みです。

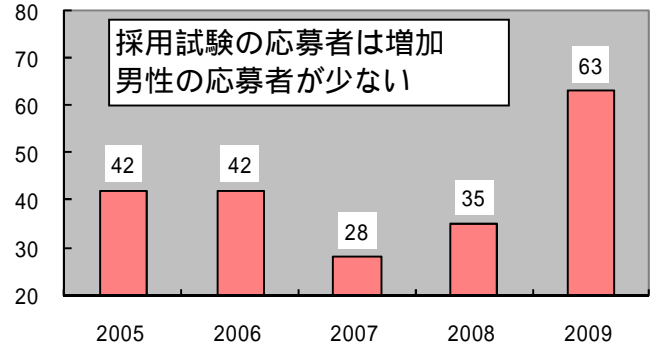
経常収支差額率は、本業で利益を出せているかをはかる指標で、3.3ポイント上がっています。要因のほとんどが報酬改定によるものです。今後の人件費の自然増（定期昇給分など）や今まで不十分であった設備の更新計画、新たなニーズに応えていく新規事業への投資などに対応できるようさらなる努力が必要です。

現金預金保有率は、安全性分析の短期支払い能力を判断する指標です。比率が高いほど短期的な支払い担保能力が大きいとされます。2.8ポイント上昇し、賞与資金借入をせず内部資金でまかなうことができるようになりました。

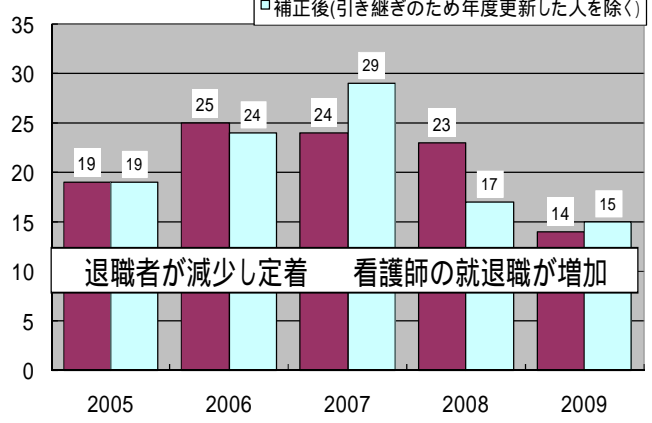
実習生の受入は、福祉人材の育成に不可欠で社会福祉法人の大きな役割のひとつです。136人増えていますが、高齢事業部での受入が特に伸びています。社会福祉士の実習受入要件が厳格化されてきますので法人としても受入体制の整備に力を入れていきます。

ボランティア数は、992人減少しています。今も多くのボランティアに支えられ運営しますが、受入体制を整え、情報発信をして積極的な働きかけが必要です。

正規職員採用試験応募者



退職者数推移



## 事業報告データ

年度		平成20年度	平成21年度
勤続年数	正規	7年6ヶ月	7年7ヶ月
	非常勤	4年5ヶ月	4年5ヶ月
平均年齢	正規	36歳0ヶ月	36歳7ヶ月
	非常勤	44歳3ヶ月	43歳11ヶ月
常勤換算	直接	155.65	158.6
	正規 間接その他	21	24.62
常勤換算	直接	97.02	98.95
	非常勤 間接その他	16.15	25.51
退職者比率		13.19%	7.14%
新入職員定着率		89.47%	91.67%
人件費比率		67.17%	62.63%
経常収支差額率		6.71%	10.02%
現預金保有率		15.85%	18.66%
実習生受入人数		258	391
ボランティア人数		6,074	5,082

# 苦情解決報告

年度別件数	年度別			内容別					
	19年	20年	21年	説明不足	職員態度	サービス内容	人権侵害	利用者間	その他
ひかりのさとのぞみの家	5	5	8		2	6			2
まどか	4	8	11		2	3		4	3
愛光園	1	1							
グループホーム									
ひかりのさとファーム	1		1					1	
相生	3	3							
らいふ	1								
通所りハビリ・こぶし	13	11	5			2		2	2
相生ヘルパーステーション	3	3							
もくせいの家									
おひさま			2	2					2
合計	31	31	27	2	4	11	0	7	9

(内容別は1件で複数カウントしているものもあり合計は一致しません)

## 苦情解決第三者委員会での意見など

- ・件数は昨年度とほぼ同じ。どこまで「苦情」として取り上げるかで件数は大きく変わる。「苦情」を「苦情」として認識されていないことが課題。細かいこともキチンと記録して対応していくようにする。
- ・何度も同じことを繰り返したり、説明対応が不適切であったり、「苦情」以前の問題もある。また、苦情を訴える人への対人援助技術を高める必要がある。
- ・知的障がいや認知症の方は自分で「苦情」として訴えることはしにくいので、まどかななどでアンケートを実施した。ひかりのさとのぞみの家やひかりのさとファームは苦情解決第三者委員によく来ていただき助言を頂戴したり、利用者との交流を深めていただいている。苦情解決第三者委員の増員をしていきたい。
- ・ホームヘルプでは、苦情解決第三者委員の関わり方が難しいので、懇親会など別の方法を検討していく。



# 平成21年度決算報告

全体では、当期資金収支差額で1億4,400万円のプラスになりました。経常収支差額では2億6400万円のプラスです。

主な内容としては、介護保険収入は2,100万円プラス。要因は報酬単価がアップしたり、もくせいの家の定員増などがありました。こぶしは前年に比べ利用率が下がっており、全国的に通所介護の利用率は下がっています。自立支援費収入については1億5,400万円プラスとなりました。報酬単価のアップや加算の影響が主な要因です。まどかは新事業体系に移行して増収になったり、愛光園では人員配置加算でプラスになりました。その他事業収入はほとんど食事サービスセンターの内部取引です。

経常経費補助金は、トータルは500万円のマイナスになりました。民調運営費補助金は1,800万円減っていますが、職員の待遇改善のための処遇改善助成金・交付金で2,000万円増えました。寄附金収入も毎年減ってきており昨年は200万円減っています。

人件費は7,200万円増額しています。人員配置が増えたり、11月から給与改定し処遇改善に取り組んだことによるものです。ひかりのさとのぞみの家が増えているのは、食事サービスセンターの職員がまどかからの異動や増員したことが影響しています。愛光園は1,700万円増えています。看護師・支援員を7人増員したためです。相生は人件費が減少していますが、一部人材派遣など委託費にシフトしています。

設備投資は食事サービスセンターを整備しました。今年度以降はケアホーム等の整備をしていきます。

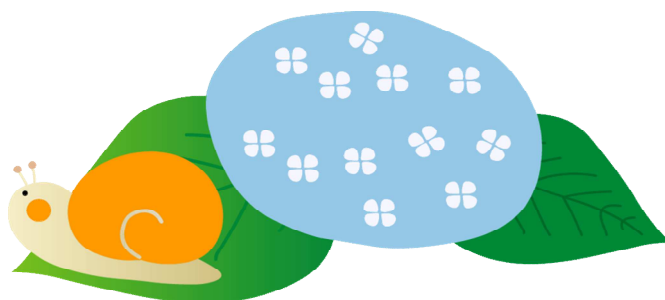
事業活動収支は、損益計算で2億800万円のプラスでした。昨年は報酬単価の改正は4月からでしたが、給与改正は11月からであったので、今年度は給与の増額が一年分になるのでここまで利益は出ない見通しです。

貸借対照表では、現金預金では1億円の増額になりました。借入金も短期借入を含め9,000万円減っています。借入金の負担は、20年度の借り換えの影響もあり金利も含めて減っています。今年度、来年度完済するものがあるので、借入金返済の山場はもうすぐ越えます。

収入支出共に増えていますが、経営的には良くなっています。事業所ごとでは、ひかりのさとのぞみの家は、食事サービスセンターが始まったため、収入と支出が増えていきます。まどかは収入は増えましたが、支出はあまり増えていないので利益が出ました。愛光園は、人員配置加算などで増収しましたが、増員したため人件費が増え、経営的には厳しい状況です。ヘルパーステーションりんくは、報酬単価の改正や処遇改善助成金の率が大きく大きな増収になりました。こぶしは、20年度の利用率が非常に高かった分、反動で下がっています。もくせいの家は、2名の定員増と長期入院などなかったため増収しました。

最後に借入金の状況は、平成19年度に運転資金の借入と愛光園建設借入を行ったため増額していますが、その後は順調に返済しており設備資金の残高が5億円、運転資金は約1億円になりました。運転資金に関しては早期に返済していけるよう努力していきます。21年度からは賞与資金として短期借入をしないで内部で手当てできるようになり改善しています。ただし、内部での貸付などあり事業所資金に偏りがあるので改善の努力をしていきます。設備の借入も順調に減っており、障がいの設備資金の償還には県の借入金償還補助金もあり、実質負担は半分程度になっています。高齢事業部での借入は、22年度に知多信用金庫からの借入した分の一部と23年度にはふるさと財団からの借入についての償還が終わるので、4,000万円あまりの設備資金の償還になり、高齢事業部の収益でまかなえるようになる見通しです。

今後は新たなケアホームの整備や古くなった施設・設備の更新などに投資していく必要があります。



貸借対照表

単位：千円

資産の部		負債・純資産の部		
1年以内に現金になる		1年以内に支払う借金		
資金を何に使っているのか	<b>流動資産</b> <b>944,543</b>	資金をどこから調達したのか	<b>流動負債</b> <b>236,406</b>	
	現金預金 552,408		短期運営資金借入金 0	
	未収金 295,351		未払金 134,298	
	立替金 10,372		預り金・仮受金 23,001	
	前払金 2,729		その他 79,106	
	仮払金 242		1年を超えて支払う借金	
	商品製品 530		<b>固定負債</b> <b>660,509</b>	
	仕掛品・原材料 3800		設備資金借入金 500,005	
	その他 79,106		長期運営資金借入金 96,235	
			退職給与引当 63,869	
	預かり保証金 400			
	合計 896,915	合計 2,063,272		
			支払う必要がない	
			<b>基本金</b> <b>762,986</b>	
			<b>国庫補助金等特別積立金</b> <b>428,736</b>	
			<b>次期繰越活動収支差額</b> <b>871,549</b>	
			(うち当期活動収支差額) <b>202,959</b>	
合計	2,960,187	合計	2,960,187	

貸借対照表は、年度末時点の試算や負債の状況を見るために作成しています。貸借対照表の左側には資産が計上され、右側には負債と純資産が計上されます。今回はAの固定資産に注目して平成21年度の固定資産の変動を見ていきます。固定資産の内、基本財産は法人存続の基礎となる財産で処分や担保に供するには愛知県の承認が必要になります。下記は21年度に固定資産がどれだけ増えたか、補助金や寄附金でいただいたものがどれだけあるかを表しています。

基本財産			
建物	食事サービスセンター増築	13,039	
	ひかりのさとのお家の厨房を増築して4施設合同の食事サービスセンターを作りました		
建物付属設備	もくせいの家スプリンクラー設備	5,124	補助金 5,124
	東浦町から地域介護福祉空間整備等補助金をいただき、もくせいの家にスプリンクラーを設置しました		
その他の固定資産			
建物付属設備	食事サービスセンター設備	20,048	
	食事サービスセンターの電気設備、給排水衛生設備、ガス設備、空調換気設備、厨房設備を整えました		
車両運搬具	バス リエッセ	4,748	補助金 3,560
	日本財団から補助金をいただき、まどかのバスを買い換えました		
	ハイゼット	1,180	補助金 930
	日本財団から補助金をいただき、りんくの福祉車両を増車しました		
	エブリワゴン	750	補助金 590
	日本財団から補助金をいただき、ひかりのさとファームの就労支援に使用する車両を増車しました		
	トヨタアイリス	2,500	寄附金 2,500
	社団法人愛知県自動車会議所から相生の送迎用車両を寄附していただきました		
器具及び備品	食事サービスセンター備品	6,720	
	食事サービスセンターの備品(冷蔵庫やスチームコンベクションなど)を整えました		
	シャワーベット	6,352	補助金 2,500
	介護労働者設備等整備モデル奨励金をいただき、相生のシャワーベットを買い換えました		



# 資金収支計算書の概要

## 平成21年度 資金収支計算書

単位:千円

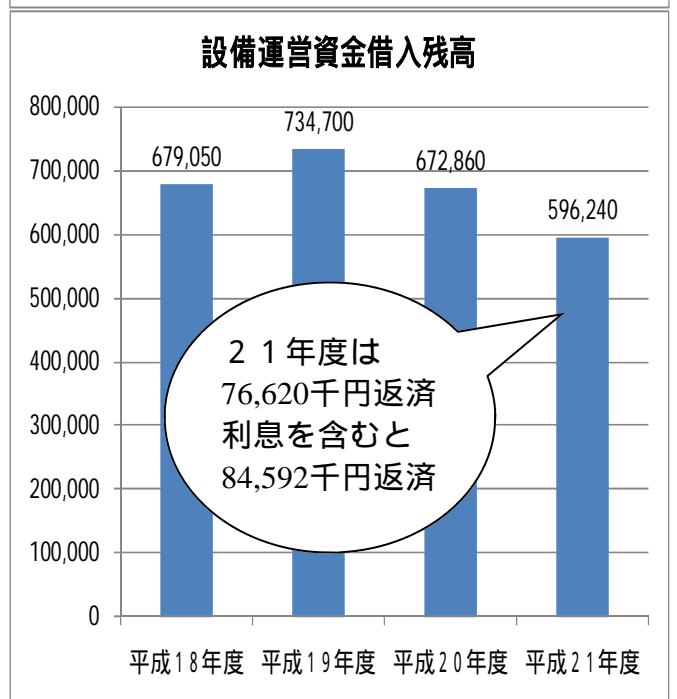
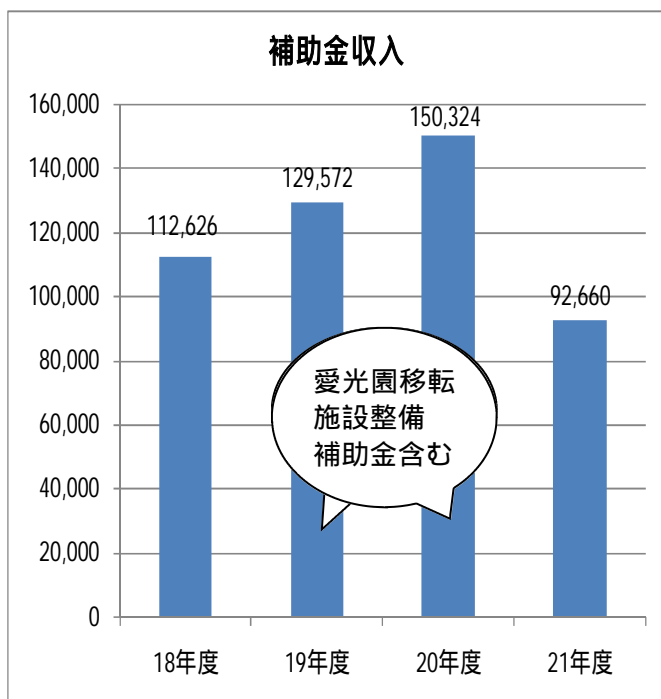
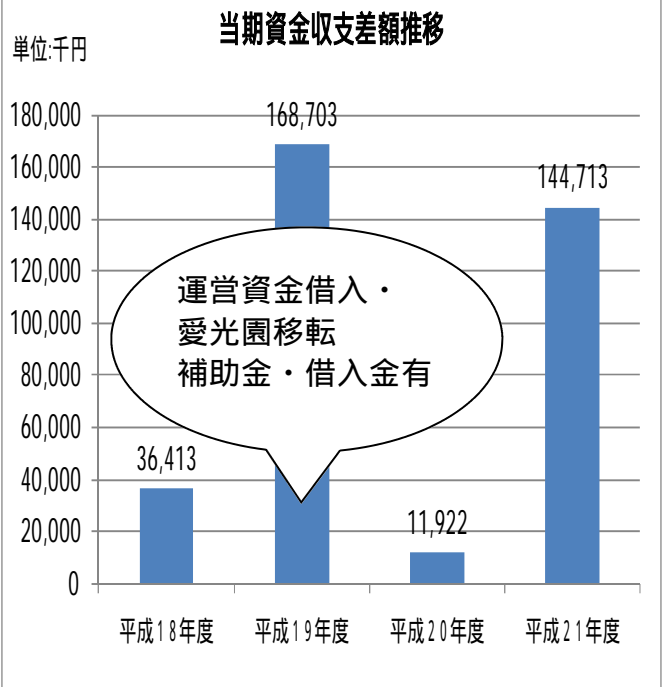
支 出	人件費	1,316,701	収 入	介護保険収入	747,128
	事務事業費	506,761		自立支援収入	908,812
	借入金利息	8,332		事業収入	341,244
	本部繰入金など	132,998		補助金収入	92,660
	就労支援支出	46,307		寄附金	14,313
	固定資産取得支出	65,610		その他	17,575
	借入金返済支出	76,620		本部繰入金など	132,998
	その他	3,570		就労支援収入	46,882
当期資金収支差額		144,713			

資金収支計算書は、支払資金の増減原因・内容を明らかにするために作成します。支払資金の増加（あるいは減少）額を当期資金収支差額と言います。資金の増減ですので損益とは違います。

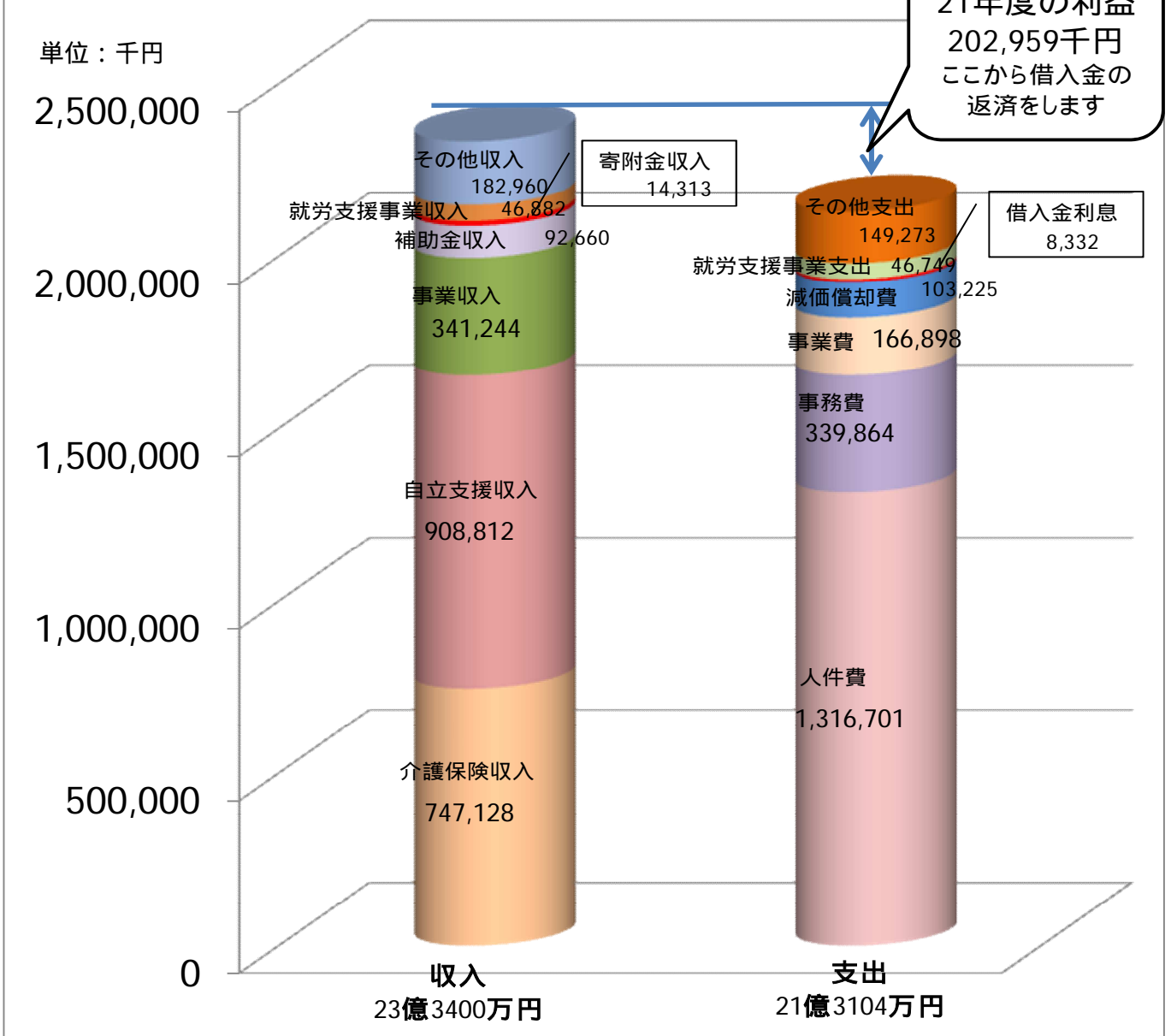
平成21年度の愛光園の収入は平成20年度と比べて238,752千円の減少、支出は371,544千円の減少、収入と支出の差額である支払資金は132,791千円の増加となりました。

収入を見てみると、介護保険料や自立支援費収入、その他の事業収入は増加していますが、補助金収入が減少しています。これは10月から処遇改善交付金が補助金として交付されていますが、障害事業部の民調補助金の減額もあり、補助金全体としては減っています。

支出は、人件費が人員増や給与改定の影響で72,449千円、事務費は内部取引の増加などで74,020千円増えています。

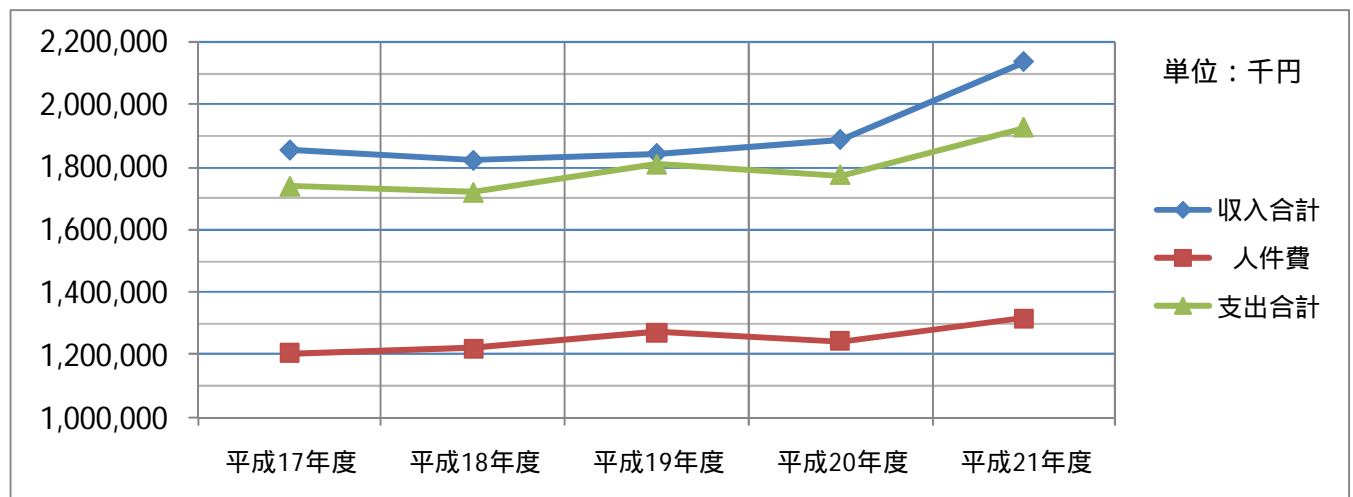


## 事業活動収支計算書の概要



## 経営状況推移

法人内資金移動、国庫補助金等積立金取崩、引当金は除く



# 栄養士研修会を企画して

まどか栄養士 半妙 芳子

6月28日、知的障がい者福祉協会更生施設部会の栄養士研修会が行われ、愛知県内から30名の栄養士の方々が、ここ社会福祉法人愛光園に足を運んでくださいました。

午前中は、施設の周りと畑を見てもらい、食事サービスセンターへ案内をしました。近代的なスチームコンベクションやプラスチックラー、パススルーの冷蔵庫を使っているところと、逆におひつや玄米食、よい食材を使っていることに皆さん熱心にメモや写真を撮っていました。

その後障がい者活動センター愛光園の会議室を使い座学です。ひかりのさとのおみの家管理栄養士の稲坂さんから、食事サービスセンターが大切にする実践について、センター化の経緯と思い、よい食材の厳選など丁寧に説明がありました。私からは、まどかの個別対応と題して、狭い厨房の中でトレイ食や刻み食を提供していることや、センターとの連携について話をしました。

昼食は、ひかりのさとファームのレストランで、車麩やグルテンを使った幕の内弁当に関心を持たれていました。午後からのグループディスカッションでは、3グループに分かれ話し合いました。理想と現実の狭間で悩む栄養士ですが、少しでもよくしたいとみなさん思いや悩みを語ってくれました。

パンの提供で悩んでいる施設が多くありました。ある施設ではパンの刻みが誤嚥につながるとミキサーにしたり、パン食そのものをあきらめることもあるそうです。ジャムを多めに塗ったり、小分けにして少しずつ食べてもらったりと意見は様々にでました。食事介助する職員にも重要な役割があり、「豊かに、楽しんで食べてもらう」という気持ちがとても大切だと思います。それは、私たち調理する側は、より大切にしなければいけないことだと感じました。

この栄養士研修会を企画して、食事サービスにはサービス管理責任者、直接支援職員、調理員、看護師、栄養士の連携を忘れてはいけないと思いました。私自身、感謝の気持ちを忘れずに、モチベーションをあげてがんばります。



まどかの個別対応



刻み食

## 『質疑より』

**年齢層に合わせた食事をどのようにご用意しているのか?**～基本は、主食量の調整で行っています。基本的に材料・見た目が変わらないように展開をしています。蒸しものと揚げものので作り分けをし、盛り付けをしています。

**栄養ケアマネについて**～障がい福祉部門も、昨年度から栄養ケアマネジメントが始まりました。給食関係の業務との両立方法、介護支援員と看護職員との連携方法、ケア計画の共有方法などが話題に上がりました。

**「スチームコンベクションオープン」**～コンベクションオープン(ファンにより熱風を強制対流させるオープン)に、蒸気発生装置を取り付け、熱風または蒸気をそれぞれ単独で利用して、「焼く」「蒸す」ができ、また、同時に利用することで、「煮る」「炊く」「炒める」などができる多機能な加熱機器です。

**「プラスチックラー」**～冷風を吹きつけることで急速に食品を冷却する機器。細菌の繁殖防止、味、風味、においを逃さず、鮮度管理にも高い効果を発揮します。

**「パススルーの冷蔵庫」**～前後に扉を設置し、作業性の向上や先入れ先出しが実現し安全性を向上することができます。



# ひかりのさとファーム 商品紹介



## 夏季限定

昨年夏に登場した『リキッドコーヒー』が、この夏も登場です。良質の豆を一粒一粒厳選し、自家焙煎したオーガニック・アイスコーヒーをリキッドタイプでご提供いたします。ひかりのさとファームレストランでお出ししているそのままの味をご家庭でもお楽しみください。

**自家焙煎・オーガニック**  
 ~香り豊かな無糖テイスト  
**リキッドアイス珈琲**  
 1本 600円(1000ml)



**Hikarino  
sato Farm**

レストランにて  
**ダブルDEスイーツデー**  
 ケーキ+ケーキ×珈琲or紅茶 770円

毎月第3週の一週間は、ファームの新鮮な平飼いたまごを使用したシフォンケーキとお好きなケーキ1種類（合計2種類）と自家焙煎珈琲または紅茶（2杯まで）がなんと770円でお召し上がりいただけます。素材にこだわった手作りのケーキをご用意してお待ちしております。

お問い合わせ：ひかりのさとファーム 0562 - 84 - 4151



## ひかりのさと案内図

JR東海道線大府駅下車、タクシー（15分）が便利です

